

寺子屋（その1）

この地区を取り巻く記事として、「戸山ケ原」を掲載しましたが、今回は『寺子屋』を企画しました。

小滝橋を渡り早稲田通りを高田馬場方向に行くと、左手に観音寺という寺があります。この寺の墓地に「大河原先生之墓」と刻まれたひととき大きな墓碑があり、その裏側に筆子一同（教え子一同のこと）として二百十七名の名前が地域ごとに書かれています。その内訳は戸塚町47名、中野町99名、野方町25名、上落合28名、下落合18名。当時この周辺の子ども達がこの寺へ読み書きを習い、その先生の死を偲んでこの碑を建てたとの事です。



大河原先生の墓碑
(観音寺)

日本政府は近代国家建設を基本方針とし、明治元年に「五ヶ条の御誓文」を発布、明治2年には小学校設置を全国に命じ

ました。と言つても中野で一番古い小学校は明治8年創立の桃園小学校で、この東中野4・5丁目には、旧東中野小学校が出来る昭和7年までは無かったのです。

従つて明治生まれの人は近くにある『寺小屋』に行き、日常必要な、いろは、書算そして手紙、修身等が、教科として教えられました。



寺子屋（その2）

徳川幕府から明治へ、日本は五箇条の御誓文、憲法の制定、教育勅語の発布など西洋文明を取り入れ、近代化政策を進めてきました。しかしその基本たる教育の場は極めて限定され、国民全般に徹底させる迄には相当な時間を要しました。

中野区史等資料を見ますと、明治時代に中野区に実在した小学校は次の4校のみです。注（ ）は創立日。

桃園小学校（明治8年4月8日）

鷲宮小学校（明治13年3月9日）

江古田小学校（明治15年2月4日）

野方小学校（明治15年8月28日）

といった具合で、東中野地区にはその分校すらありませんでした。



女性師匠の寺子屋も多かった

その中でも一番古い桃園小学校について区史を見ますと、創立当初は宝仙寺の堂宇（お堂）が仮校舎で、児童は百名足らず、首座訓導（教

員）が3名、毎月の補助金が十円と記されています。

従つて東中野地区の児童は公的な教育の場が無かったので、私塾や寺子屋などに行き、読み書きを習うしか方法がありませんでした。

当時は電車（新宿く立川の開通が明治22年）やバスも自動車も無い時代、まず通学は不可能であつたでしょう。